

“まち保育”の提唱を通じた 子育てをまちづくりと捉える啓発・推進活動

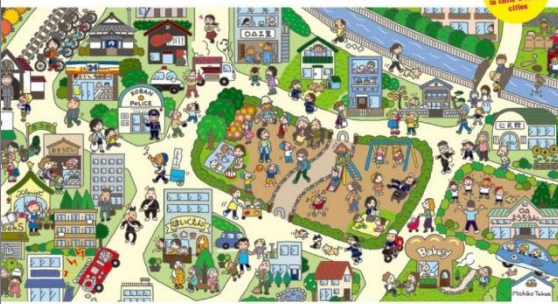
“まち保育”は子どもたちの生活をより豊かにするものです。

私たちは、『まち保育とはまちにあるさまざまな資源を保育に活用し、まちでの出会いをどんどんつないで関係性を広げていくこと、そして、子どもを囲い込まず、場や機会を開き、身近な地域社会と一緒にまちで子どもが育っていく土壌づくりをすること』と定義し、子育て支援の場においても、家庭生活においても、また地域の活動においても、“まちで育てることはまちが育つことにつながる”という考え方の普及・啓発と、実践の伴走に努めています。

<https://www.facebook.com/machihoikunosusume/>
まち保育研究会 代表・三輪律江(横浜市立大学教授)

まち保育のススメ

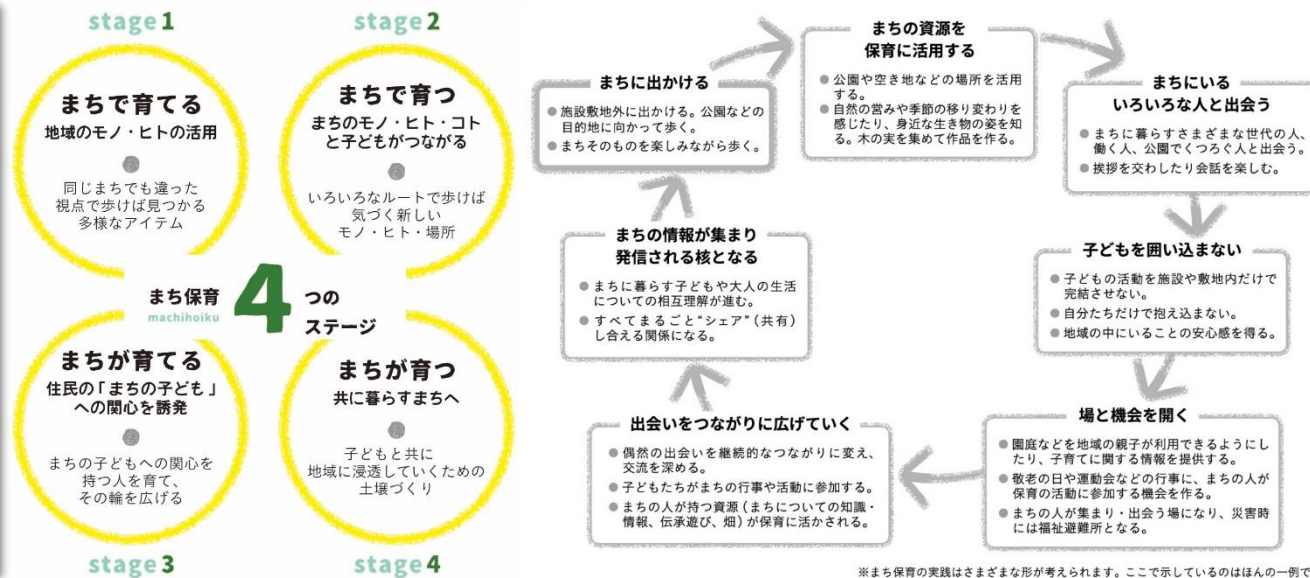
growing up and becoming an adult in safety zones



おさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり

三輪律江 尾木まり (監修)
米田佐知子 谷口 新 藤岡美穂 松橋由子
田中福子 堀尾美子 神田明子 宮永真穂

明文社



※まち保育の実践はさまざまな形が考えられます。ここで示しているのはほんの一例です。

出典：三輪律江・尾木まり他『まち保育のススメ おさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』2017年5月5日発刊(明文社)

活動エリア：横浜市(主に青葉区、神奈川区、戸塚区、金沢区、港北区)を中心に全国展開

■活動を始めた背景と経過

研究会代表の三輪律江は、建築・都市計画、まちづくり、環境心理を専門とし、その分野から乳幼児の子ども達とその世代が集積している場とまちとの相互関係に注目した調査や実践を行ってきた。

乳幼児期の子どもが地域に見守られながら育っていくためのまちづくりへの挑戦には、多分野にまたがった処方箋的な手法、その意義や効果についての議論と、現場との連携・発信・協働が必要と、建築計画、環境工学、防災計画、保育学、臨床心理学など分野横断型の研究者や実践者らと共に、『まち保育のススメ(萌文社、2017)』を出版した。

※第13回こども環境学会賞(論文・著作賞)受賞。
第1版2000部発行。その後第2版500部、第3版500部増刷。

出版にあたり留意したことは、以下の5点である。

- ① **多分野の現場や教育機関などで取り上げてもらえるべく、学際的な研究者と実践者でまとめる。**
- ② **エビデンスに基づく学術書でもある。**
- ③ **誰でも理解でき親しみやすいつくりにする。**
- ④ **「あ、やってみよう、やれるかも！」と、すぐトライできそうなノウハウを込める。**
- ⑤ **出版がゴールでなくスタートとなるように、社会に発信しつづける媒体となる。**

研究会では、出版を機に学術的エビデンスとともに「まち保育」の概念を広く伝えるべく、多様な分野からのオファーに応え、講演や研修だけでなく、現場への伴走支援の協働事業等を実施している。

①～③の調査研究・実践を多分野横断で整理し、社会的背景を踏まえて「まち保育」の考え方を議論し定義

②保育施設とまちとの関係についての調査研究(2007年～)

③「保育施設×地域つながりアップ・マップワークショップ」プロジェクトの実践・検証(2012年～)

①就学前児童の成長に伴う親子のまちでの潜在行動等の調査・研究(2004年～)

▲理論と実践から成る『まち保育のススメ(萌文社、2017)』構成と特徴

東京新聞 TOKYO Web
【自筆】<子どものあした>まち保育で街も豊かに 横浜市立大・三輪教授ら出版

2017年7月21日

乳幼児期の子どもが、地域に見守られながら育っていくための提案する本『まち保育のススメ』(萌文社)が、建築・都市計画・まちづくり・環境心理の専門家「多分野横断型」の研究者らによって編纂された。横浜市立大の三輪律江(のりえ)准教授(48)らが主筆した。保育施設(保育園)の調査や現場での実践を通じて、地域で子どもを育んでいくためのヒントを探っている。(佐藤 優)

本書は、子育て支援や環境計画、環境工学、防災などの専門分野の人による執筆。乳幼児期の保育が、重要な役割を担っている。保育施設が「国」の責任で守られるべきであるという考えが、本書の根幹をなしている。乳幼児期の子どもが、地域で育ちながら成長していくためには、施設と地域がつながることが不可欠である。子どもを育むために地域とつながり、交流しあう。保育施設は、子育て支援の場として機能している。

三輪さんは、環境工学や建築計画が「まちづくり」に欠かせない分野として、「まち保育」の実践を通して、保育施設が「国」の責任で守られるべきであるという考えが、本書の根幹をなしている。乳幼児期の子どもが、地域で育ちながら成長していくためには、施設と地域がつながることが不可欠である。子どもを育むために地域とつながり、交流しあう。保育施設は、子育て支援の場として機能している。

A4判変型、百二十ページ、二千四百円(税別) 発行所は萌文社(〒103-8211 9-0-9 東京) 03-5561-1111

▲活動・出版に関する雑誌・新聞記事の一例

▼NPO法人森ノオトと横浜市青葉区役所との協働事業「フラワーダイアログあおば」での、公園愛護活動グループや一般市民、行政担当者に向けた「まち保育」実践研修の記事(2019)。
<http://morinooto.jp/2019/01/20/machihoiku>

森ノオト
NPO法人 横浜市青葉区役所との協働事業

「まち保育」を体験！子どもの視点で見直す住宅街の花と緑

2019年01/20

カテゴリ
たのしみ つくも
まなび そだて
くらし できごと

地域
横浜あおば
横浜南
横浜東
横浜西
横浜南
横浜東

ピットアップ
緑のなまこ部屋

■これまでの主な活動実績と今後の展開 (1)多様な分野での講演・研修の実施

講演や研修では、分野を超えて多岐にわたる。子育て支援施策を福祉施策に閉じず、まちづくり施策としても捉える視点を引き出す活動として注力している。

【建築・都市系関係団体】

- ・日本都市計画協会×シティラボ東京 連続セミナー [web記事写真①](#)
- ・全国まちづくり会議分科会8 / 日本都市計画協会
- ・ソトバ TABLE #24 /ソトバ(若手プランナー)
- ・すまい・まちづくりシンポジウム2017 /(-社)プレハブ建築協会 [web記事写真②](#)
- ・子育て×まちづくり研修 /UDCK、UDC2
- ・「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」
- ・「新型コロナがもたらすニューノーマルに対応したまちづくりに向けての検討会」
- での話題提供 /国土交通省
- ・子育て支援施設開設を契機にした子育てまちづくりに関する講演 /北上市 [チラシ写真③](#)
- ・子育てとまちづくりに関する講演 /加古川市市民セクターNPO 他多数

【子育て支援・保育・福祉系関係団体】

- ・横浜地域子育て支援フォーラムにて基調講演、
- 港区・青葉区保育者研修、港南区・戸塚区子育て連絡会支援者研修 他 /横浜市
- ・家庭的保育現任研修 /NPO法人家庭的保育全国連絡協議会
- ・神奈川県子どもの食育支援研修 /神奈川県立保健福祉大学
- ・西宮市立子育て支援者講座 /西宮市立子育て総合センター
- ・ISGA国際シンポジウム /国際校庭園庭連合日本支部
- ・2021年度全国生協方針検討集会特別講演 /日本生活協同組合連合会 他多数



様々なワークショップの実践

▲本の出版をきっかけに企画・開催された研修や勉強会(抜粋)

▲研修や勉強会などで紹介されるまち保育ワークショップのノウハウ例

<https://citylabtokyo.jp/2019/06/25/190713jsurpxclt-machihoiku-2/>

① 協会 TOPICS 住まい・まちづくりシンポジウム講演報告

7月7日(金)、「すまい手が求めるまちづくり-子育て」の視点で考える心機能とコミュニティ形成」をテーマに日比谷図書文化コンベンションホール(東京都千代田区)にて開催しました。

横浜市立大学 国際総合科学部 国際都市学系まちづくりコース 准教授である三輪 幸江氏より「みんな子育てがうまくいきます」まちづくりと子育てに関する講演いただきました。講演要旨は下記のとおりです。

みなさんも共に育つ「子育て」

子育てという言葉はよく耳にすると思いますが、あえて子育てを主語に取ると「子育て」という言葉が使われることがあります。子供と共に暮らしながら、1人の大人として成長し合う。さらには子供と共に暮らしも育つという考え方です。本日はこの「子育て」をキーワードにお話させていただきます。

多様な環境を子供たちの居場所

これまでも研究が重ねられてきた子育て環境は、地域が中心でしたが、現在は女性の増加により非常に多様化・複雑化しています。単なる預かり機能としてではなく、子供だけでなく、親子で一緒に過ごす場、さらに年齢に応じた様々なプログラムが展開されています。

子供だけで過ごす場としては、児童福祉法に基づき保育施設である「保育園」、学校教育に即づく文芸施設である「幼稚園」、子ども・子育て支援の下で保育を総合した保育所があります。認定こども園があります。目的はほぼ一致していますが、それぞれ役割により環境整備が異なります。

保育施設の種類・立地から見える地域との関わり

保育園は11:00～15:00、幼稚園は8:00～17:00、認定こども園等は保育所と同じように8:00～17:00です。保育園は11:00～15:00、幼稚園は8:00～17:00、認定こども園等は保育所と同じように8:00～17:00です。

https://www.purekyo.or.jp/about/Journal_JPA/data/jpa_vol.46-260.pdf

② 第2回 hakko warm-up talk

まちに出て人と出会う

—北上で子育てを考える—

2021年7月、北上市で子育て支援施設整備のワークショップを実施しました。このワークショップで、子育て支援施設整備の重要性を改めて認識し、子育て支援施設整備のあり方を考えることができました。

1/25 13:30-16:30

主催: 北上市子育て支援センター

協賛: 北上市子育て支援センター

講師: 三輪幸江 (横浜市立大学 国際総合科学部 国際都市学系まちづくりコース 准教授)、山田 孝子 (純文会)、渡辺 孝子 (純文会)、LIA (純文会)

お問い合わせ: 北上市子育て支援センター 子育て支援課 0242-22-2222

(2) まち保育の視点を伝え、共助力を高めるノウハウの提供と現場での伴走

複数のフィールドにおいて、保育士や子育て支援者、保護者、事業者、行政担当者などに対して、まちを楽しむ手法やその効果からまちづくり活動への開眼に向けて様々に支援。

●2019年度より横浜市神奈川区こども家庭支援課との協働事業『「まち保育」の観点から取り組む保育・教育施設の共助構築に向けた検討・実践』を開始。

区内全幼保施設向けに、「まち保育を通した保育・教育施設の地域連携の在り方勉強会」と「共助力強化ワークショップ」を研修方式で開催。コロナ禍においては(株)ゼンリンの協力を得て、「まちたんけんキット」を使用した遠隔研修も工夫して実施している。

また区内の複数の幼保施設へは共助力を高めるための伴走支援を実施している。

なお同課はチーム横浜副市長賞、三輪は横浜市立大学学長表彰(奨励賞)を2019年度にW受賞。



▲講座とワークショップの様子



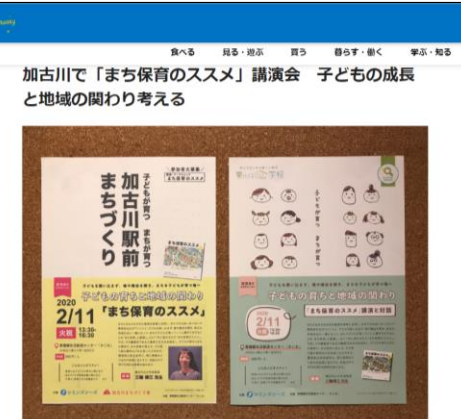
▲<https://www.townnews.co.jp/0117/2019/10/31/503961.html>
<https://www.kanaloco.jp/news/social/entry-208076.html>▲

●2021年度より住友緑化(株)との協働事業『「企業緑地を活用したまち保育的環境学習の可能性についての実践研究』を開始。

閉ざされた企業緑地のみどり資源を活用した環境学習プログラム化を図り、緑地のみどり価値見える化と、地域との共生を目指す企業の伴走支援を実施中。
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/Contributions/research/2021saitaku.htm>

(3) 施設整備やまちづくり開発における「まち保育」視点の導入展開

行政や事業者、施設開設者・運営者等に対し、まち保育の概念を伝えそれが有効に実現する場や仕組み構築をサポート。



●育てと地域づくりを掛け合わせた「まち保育」の実践を目指す企業主導型保育施設の開設・運営(加古川市・NPO法人シミズシーズ)
<https://kakogawa.keizai.biz/headline/1075/> ▲

▲<https://www.kobe-np.co.jp/news/touban/202105/0014373353.shtml>

●「生まれる前から青少年期までの子どもを育てる世代を中核としながら、持続可能で多世代が住みやすい地域」を実現する、まちづくり開発へのコンセプト支援(横浜市緑区十日市場センター地区 22 街区)
 ▼https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/kenchiku/2020/1105_zissikeikakusyosyo.files/0003_20201105.pdf

テナント	ツールボックス	地域
子ども・子育てで実践し交流を促進する機会	子育て世帯が親子で活動に参加できる	地域の子どもたちが子育て世帯の子育て活動に参加できる
「まちの価値高」(まちの価値)をコンセプトとして子育て世帯の視点と子育て世帯の活用を地域に還元します。	子育て世帯が親子で活動に参加できる	子育て世帯が親子で活動に参加できる
子育て世帯の参画を促進するコミュニティマネジメント	子育て世帯が親子で活動に参加できる	子育て世帯が親子で活動に参加できる

「まち保育」とは？ まちの資源を保育に活用し、保護者以外のまちの人々とのまちでの出会いをどんどんつないで関係性を広げたいこと。子どもとまちを関わることでまちで子どもが育つ土壌づくりをすること。(三輪順江「まち保育のススム」より)